

JaNet

July 2017 No. 82

季刊ジャネット

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次 2017年7月25日発行

- View from the Other Side 3
ニーニーソーさん(ミャンマー)
- あちこち日本語ご紹介(国内編)..... 4
京都府 京都市
- あちこち日本語ご紹介(海外編)..... 5
ドミニカ共和国 サントドミンゴ
- 教材紹介 6
『小説ミラーさん —みんなの日本語初級シリーズ—』
『みんなの日本語 初級! 第2版 聴解タスク25』
『新訂版 読むトレーニング 基礎編 日本留学試験対応』
『新訂版 読むトレーニング 応用編 日本留学試験対応』
『人を動かす! 実践ビジネス日本語会話 中級2』
- なんでも情報BOX..... 8

スリーイーネットワーク

巻頭
寄稿

外国人にも差別のない医療を 提供できる社会を願って



医療法人社団 小林国際クリニック理事長・院長
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター理事長

小林米幸

地域でともに暮らす外国人を考える

今、様々な分野で官民挙げて、外国人を対象とした受け入れの取り組みが進んでいる。そのほとんどはオリンピックを控え、急速に増え続ける外国人観光客を取りこんで、利益をあげたいという思惑にかられているようだ。メディカル・ツーリズムという言葉に代表されるように医療の分野も例外ではない。だが、なんとなく違和感を感じるのは私だけだろうか？

「なぜ、外国人患者を診なければいけないのか？」その答えは「外国人が多くなったから」である。法務省によると平成28年末の時点で住民基本台帳に記載されている外国籍の人数は238万2,822人であり、わが国総人口の1.88%に該当する。この「238万2,822人」というのは私たちの隣人として、地域住民として私たちとともにこの日本に住んでいる人たちの数である。すでに日本に帰化した人々やその子孫を「外国人」と呼ぶかどうかの議論は別として、日本語が苦手な医療機関での受診行動に影響が出ているであろう人の数にはこれらの人々を加えなければならないかもしれない。すなわち今の日本は医師が100人の患者を診察したら2人か3人は日本語ではうまく受診できない「外国人」がいるという社会なのであ

る。外国人観光客を利益をもたらしてくれる救世主のように考えて、受け入れ策を考えることを悪いとは思わないが、このように私たちの隣人として地域に私たち同様に暮らしている人々のことをまずは考えるべき、というのが私の基本的な考えである。

インドシナ難民との関わりから

私は昭和49年に医師となり、昭和57年に大学の外科学教室から神奈川県の大和市立病院に派遣されて、はじめて多くの外国人の診療を担当することになった。その外国人とはインドシナ難民と呼ばれる人々である。

昭和50年にベトナム戦争が終結し、ベトナム、カンボジア、ラオスの旧仏領インドシナ三国に共産政権が誕生すると、政治的迫害を恐れた膨大な人の波が海外へ難民となって脱出し始めた。わが国は昭和53年の閣議でこれら難民を、定住を前提として合法的に受け入れることを決定し、アジア福祉教育財団に事業を委託した。同財団は難民事業本部を設置し、昭和54年に兵庫県姫路市に、昭和55年に神奈川県大和市に定住促進センターを開設、入所者に日本定住のために必要な語学の学習、生活習慣の勉強などの定住支援プログラムを行った。

受け入れられたインドシナ難民は1万1千人にのぼり、約8千人がベトナム人、残りの千人余りつがカンボジア人とラオス人であった。これらの人々は研修を終えるとその周囲の企業に就職して日本社会に入っていく。約1万1千人のインドシナ難民の受け入れは、わが国の現代史の中では特筆すべき出来事であったはずなのに、それが人々の知識と記憶の中にはないことが残念でならない。

私は大和市立病院に勤務する傍ら、昭和60年からは上記のインドシナ難民大和定住促進センター嘱託医を兼任し、主にカンボジア人、ラオス人の医療を担当した。このことが将来を決定づけたと言っても過言ではない。同じ病院内の他科や別の医療機関において、通訳を伴わずに来院したインドシナ難民出身者を診療することなく帰してしまったという事例は珍しくはなく、日本語を理解できない人たちが適切な医療を受けることのむずかしさをいやというほど思い知らされた。

AMDA 国際医療情報センターの立ち上げ

なんとかしなければいけないという気持ちが膨らみ、平成2年1月に日本人住民と外国籍住民を同じ地域住民として受け入れ

る通訳付きの小林国際クリニックを開設するに至った。当初は院内で英語・韓国語・カンボジア語・ベトナム語・北京語・スペイン語・タイ語に対応し、平成29年4月末までに77か国8,654人、延べ6万6千人弱の外国人の診療を行っている。これはクリニックの総患者数のおよそ15%程度に該当すると推察している。

またクリニックの開設が当日夜のNHKの7時のニュースで伝えられると、翌日から外国人や外国人に関わっている人たちからの電話相談が殺到。医療に困っている人たちの相談がこんなに多いならと、当時は任意のボランティア団体であったAMDAの仲間相談し、5人が一人100万円ずつの寄付を出し合っ、平成3年4月に英語・スペイン語・北京語・韓国語・タイ語の5か国語で外国人から無料の医療・医事相談を電話で受け付けるAMDA国際医療情報センターを東京に設立した。同センターは平成28年4月までに約8万件の電話相談を受けており、開設以来、理事長としてそのすべての相談を知る立場にいる。

医療現場で外国人患者が直面する問題

外国人患者も日本人患者も同じ「人」を診るのだから同じだろうと観念論的に思うと大きなまちがいである。たしかに人間としての尊厳は同じである。差別をしてはいけないが、様々な点でちがいがあ。外国人患者を診るにあたり問題となる点を列記すると、言葉の問題、医療費の問題、医療に関する考え方・習慣のちがい、疾病のちがいなどであろう。言葉が通じなければ、受付もできない、診察も支払いもできない。問診票も書くことができないし、検査や手術の注意書きを読んでその内容を理解してサインすることもできない。これは患者にとってだけでなく、医師にとっても非常に「危険な」状況と言える。

医療費の問題は複雑である。住民基本台帳に掲載されている外国人はすべて日本の公的保険に加入する資格を有している。加入する資格がありながら加入をしない人たちもいて、その理由の多くは「病ではない時にも掛け金を支払う」という互助会的な日本の公的保険の性格を理解しないことによる。

日本語学校の教職員の皆様をお願いしたいことは、このようにケースをぜひなくすべく、指導していただきたいことである。ひと

たび病に倒れてから公的保険への加入の道を探ると、本来加入できたであろう時から掛け金のうち、2年分、または3年分をまとめて支払わねばならず、それができずにさらに無保険状態が続くという悪循環に陥ってしまう。保険なしで受診する、いわゆる自費診療費用は医療機関によって同じ治療でも費用が異なるが、総じて高額となる。したがって最初に加入するということが極めて大切なのである。

医療に関する考え方・習慣のちがいには宗教上の習慣やタブーのちがいなども含まれ、目には見えないだけに気づかれにくい。知らずに診察したことで外国人患者との溝をつくることになりかねない。これらについての知識は日頃、彼らと接する日本語学校の教職員からむしろ指導していただけるかもしれないと思っている。

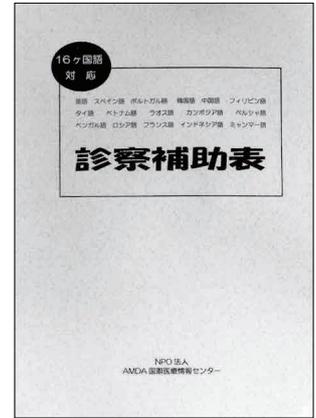
疾病のちがいも重要ではあるが、これについては医師として知識を常日頃習得することしかない。また医師としては疾病のちがいが特定の国の人々に対する差別につながるないように配慮しなければならないだろうと強く考えている。

AMDA 国際医療情報センターの医療相談

外国人学生の健康の問題でお困りの際にはAMDA国際医療情報センターに相談いただけたらと思う。センターの相談電話は電話代以外は無料である。英語・スペイン語・中国語・韓国語・タイ語については365日休みなく、午前9時から午後8時まで、ほかにポルトガル語が月、水、金の週3日、午前9時から午後5時まで、タガログ語が水曜の午後1時から午後5時、ベトナム語が木曜の午後1時から午後5時である。

現在に至るまで、もっとも多い相談は各言語で対応できる医療機関や医師を紹介してほしいという内容だ。また外国人に適用できる医療福祉制度に対する質問も多い。

心の悩みは深刻である。なぜなら通訳が入るとニュアンスが変わってしまったり、患者が話をしなくなってしまうことがあるからだ。とくに鬱状態となってしまうと励ますことがもっともいけないことになってしまう。ぜひ初期の段階で対応を考えていただきたい。医療機関に赴いて、言葉の壁にぶつかった場合、医師の許可が得られれば、無料で電話通訳をすることも可能である。



『16ヶ国語対応 診察補助表』(AMDA 国際医療情報センター編・発行)「受付・会計」「患者から医師へ」「医師から患者へ」の3つのパートで構成。頒布価格5,000円+消費税+送料。
問合せ先: AMDA 国際医療情報センター
03-5285-8086

真の国際化をめざして

外国人を差別することは論外であるが、だからといって日本人に逆差別になるように優遇することもおかしな話だと思う。外国人に対する医療を日本人の医療とは別建てで考えるのではなく、日本医師会が提唱する「かかりつけ医制度」の中で受け止めることが地域の国際化であり、医療の国際化でもあると信じるしだいで。

AMDA 国際医療情報センター 電話相談窓口

03-5285-8088

英語・スペイン語・中国語・
韓国語・タイ語:

毎日…9:00～20:00

ポルトガル語: 月・水・金

……9:00～17:00

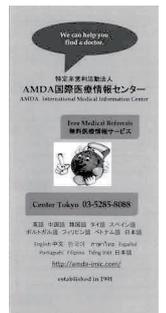
タガログ語: 水

……13:00～17:00

ベトナム語: 木

……13:00～17:00

URL <http://amda-imic.com/>



小林米幸 (こばやしよねゆき)

医療法人社団 小林国際クリニック 理事長・院長。
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター 理事長。公益社団法人 大和市医師会 会長。
1949年北海道夕張郡栗山町出身、1974年慶應義塾大学医学部卒。

日頃は神奈川県大和市の小林国際クリニックで地域の日本人、外国人の診療に明け暮れている。話せる言葉は日本語、英語、へたなスペイン語にへたなタイ語。趣味は旅行で、とくにアジアが好き。

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

祖国ミャンマーから日本へ

— 民主化運動から 29 年、現在の私 —

日本語との出会い

1988 年、当時のビルマで大規模な学生運動が起きました。学生運動は拡大し、独裁政権に不満を抱いていた国民も加わり、全国的に民主主義を求めるデモが起きました。多くの学生や国民が軍に弾圧され、銃殺されました。

私は大学 2 年生で、希望や夢に満ちた日々を過ごしていました。大学を卒業し、就職し、結婚し、ごく普通に平凡な人生を歩むのだと思っていました。ところが、軍はクーデターで国を支配し、民主主義からは程遠い展開になり、大学は閉鎖されました。民主化運動に参加した友人の中には、軍に追われ国境に逃げる人もいました。私もヤンゴンから、家族の住むピイに戻りました。

毎日何をしていいかわからず、やっていることは編み物の習い事ぐらいでした。大学の閉鎖後、若者たちは外国に出る人が多くなりました。母のアドバイスで私は日本に行くことを決意し、日本語の勉強を始めました。

ついに出国の時が

その頃の日本入国ビザは審査が厳しく、日本語学校の留学生として申請をしても却下され、金銭的に親はかなりの苦勞をしました。出国準備をしてから 1 年たった 1992 年、私は隣の国のタイ・バンコクに出国しました。バンコクで何とかして日本へ行こうと考えたからです。まさに背水の陣でした。しかし、バンコクから日本に行くことはできず、私はシンガポールへ行き、英語の勉強をすることにしました。少しずつ勉強してきた日本語は、どこかに消えて、忘れてしまいました。

翌年、やっと私は日本行きを果たしました。日本はバブルが弾けた後でしたが、まだまだ経済は活気がありました。日本語が分か



ニーニーソー

1970 年ミャンマー・ヤンゴン生まれ。1986 年ヤンゴン大学入学、化学を専攻。1988 年、民主化運動で大学閉鎖に伴い、化学の勉強を諦め、その後日本語を勉強する。1993 年来日。アルバイトをしながら、日本語を学ぶ。2017 年、ヤンゴンにある日系企業に就職、24 年ぶりに故郷に帰る。

らなくても雇ってくれるところが多く、アルバイトをたくさん掛け持ちしてお金を稼ぎ、私のためにずっと苦勞した親に仕送りをして親孝行しました。

日本語を再び勉強するきっかけ

アルバイトばかりしていた私には、勉強する時間がありませんでした。それに、片言の日本語でも何とかなっていて、そんなに気にならなかったのです。

ところがある日、ラーメン屋でホールとして雇われた 5 日目、台湾の留学生が店に雇われました。店長から「あなた、今日は洗い物をして」と言われ、「どうしてですか」と聞くと、「あなたは日本語ができないからです」との返答。その言葉を聞き、私のプライ

ドに火が点きました。油まみれの洗い物をして、涙がぼろぼろ落ちました。考えてみたら、店長の判断は正しかった。日本語ができない私よりも、できる留学生の方がホールとして適任でした。

今思うと、日本語を勉強するきっかけとなった、その店長の言葉に感謝しています。

日本語が勉強できる場所

ABK（アジア文化会館）の日本語学校で、日曜日だけ教室を借りて、在日ミャンマー人だけに日本語を教えるボランティア教室がありました。設立したのは当時 NHK に勤務していたティンアウン先生です。私は週に 6 日間働き、日曜日には日本語をコツコツ勉強しました。その結果、2000 年に日本語能力試験 2 級に合格することができました。

2001 年、ABK での勉強が教室の関係で続けられなくなり、私は秋葉原にあるミンガラ日本語教室で勉強することになりました。そこは 1996 年に西田敦先生が、「安い月謝で、多くのミャンマー人が通える教室を」と設立された教室でした。私は 1 級や N 1 に合格してからも日本語を勉強し続け、教室をお手伝いしながら、初級クラスで教えたりしました。毎週日曜日はとても充実していました。

祖国へ帰国、現在の私

教えて下さった先生たちに、継続して勉強してきた自分に、何よりも日本語を勉強するきっかけをくれたあの店長の言葉に感謝しています。2017 年、私はミャンマーに進出している日本の企業で働くことになり、祖国ミャンマーに帰国しました。年を取った両親の近くで親孝行することもでき、日本での経験を活かし日本とミャンマーの架け橋になるように日々頑張っています。



日本語ご紹介

国内編

京都府 京都市



世界に広まっている「日本語学習者のクイズ大会」を日本へ逆輸入

京都外国語大学外国語学部日本語学科
中西久実子

日本で初めてのジャパンボウル大会

「ジャパンボウル大会」はアメリカをはじめ世界各地で開催されているクイズ大会で、アメリカでは毎年一度、日本語を学習する全米の高校生たちがその知識を競い合っています(主催:ワシントン日米協会)。クイズは以下のように、日本文化・日本語・日本の歴史についての問題になっています。



クイズの一例。今回はすべて日本語で出題されます。

このクイズ大会が日本で初めて開催されることになり、開催校として京都外国語大学が選ばれました。

全日本ジャパンボウル大会の目的

本大会の目的は、学内外からの参加者が、日本語で日本文化・日本語・日本の歴史についてのクイズを体験することによって、日本との絆を深め、日本に関する学習や研究・教育において自らの向上心・モチベーションを高めることです。

また「全米ジャパンボウル大会」は参加者だけでなく、聴衆も一緒にクイズを楽しみ、日本について知ることができるため人気があるそうです。そこで、このクイズ大会を日本に逆輸入して「全日本ジャパンボウル大会」

として開催すれば、日本語教育のすそ野を広げることができるのではないかと考えました。

「全日本ジャパンボウル大会」を観覧する方は、日本の歴史や文化について「日本人なのにそれは知らなかったな」と改めて気づくこともあるでしょう。また、これをきっかけに、日本語学習や日本の研究に興味を持ち、他者にそれを伝える交流の輪も広がるかもしれません。2020年の東京オリンピック開催を前に、参加者ひとりひとりが「日本」の歴史や文化、日本語を改めて客観的に見直す好機となると思います。

日本語教員志望の学生スタッフとの協働

「全日本ジャパンボウル大会」には「全米ジャパンボウル大会」と違う点があります。日本での開催ということで出題がすべて日本語でおこなわれることになりました。さらには、準備スタッフに京都外国語大学の学生たちが加わっています。

京都外国語大学日本語学科は日本語教員を養成する学科で、学科の学生約300名は日本人学生だけでなく、外国人留学生も全員が日本語教員養成プログラム(主専攻)に登録されています。今回はこの日本語教員の卵たちが「全日本ジャパンボウル大会」の準備のお手伝いをしています。学生スタッフは約30名で以下のような班に分かれ、それぞれの担当の教職員との協働を体験しています。

【会場班】会場案内、会場設営など

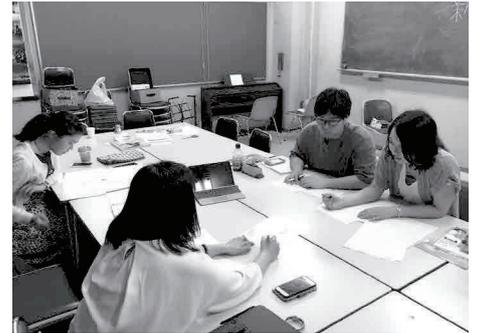
【広報班】ポスターとチラシの準備、SNSなどによる広報活動など

【出題班】クイズのルール作成など

【当日プログラム班】: 受付、司会など

【賞品班】賞品の見積もり・発注・贈呈の準備

【渉外班】ご来賓・特別審査員のお迎え、お見送りなど



参加者の動線、教室の大きさや設備を確認する学生スタッフら。

【企画班】懇談交流会、昼休みのイベントの企画

2017年11月の開催に向け、1年前から準備を開始し、すでに半年ほどが経過しましたが、学生スタッフにも教育的効果が大きいと日々実感しています。

たとえば、学生たちは本学の職員・教員にアポイントメントを取って交渉したり、学外の企業に相見積もりを取ることもあります。その際に社会人として必要なビジネスマナーを踏まえて行動しなければなりません。また、懇談交流会では、日本語学習者のために「ベジタリアンテーブルは必ず作る」「ハラール対応が必要かどうかは参加者エントリーを見て調整すること」など外国人との交流で配慮すべきことを学んでいます。

「全日本ジャパンボウル大会」は、多方面からのご来賓にもおいでいただき、秋の紅葉が美しい京都で開催されます。多くの方にご観覧いただけたら幸いです。

全日本ジャパンボウル大会

—日本語を学ぶ外国人留学生のための日本語・日本文化のクイズ大会

【日時】2017年11月5日(日) 15:00-17:00

【場所】京都外国語大学 森田記念講堂
(観覧自由)

※ 詳細は最終頁参照。



海外編

ドミニカ共和国 サントドミンゴ



ドミニカ共和国の日本語教育

日本語講師
村上つぐみ

ドミニカ共和国について

ドミニカ共和国はキューバやジャマイカの隣国でカリブ海に浮かぶ島国です。ラテン人特有の明るさがこの国の良さで、街ではパチャータやメレンゲというドミニカ共和国発祥の音楽が鳴り響いています。また、野球が強い国で、広島東洋カープの野球アカデミーがあります。海岸にはリゾートホテルが立ち並び、観光客でにぎわっており、現在、経済成長率はラテンアメリカで3年連続1位です。首都には途上国とは思えないほどの高層マンションやビルが建ち並んでいます。地方ではまだまだ開発が必要とされています。

現在の日本語教育

ドミニカ共和国には主な日本語教育機関が3つあります。

- ・日本ドミニカ文化センター：民間の日本語教育機関で、生徒数が117名と3つの中で最多です。また運動会などの日本行事やイベントも行われています。

- ・APEC 大学：私立大学で1997年に青年海外協力隊の日本語教師派遣が始まり、2013年まで9代にわたり協力隊が派遣されました。現在は現地採用の教師(日本人1名、ドミニカ人2名)が、クラスを運営しています。

- ・サントドミンゴ自治大学：ドミニカ共和国唯一の国立大学で、2014年に日本語クラスが開設されたばかりです。現在は2代目の協力隊員が首都のサントドミンゴ校で活動していますが、現地人教師2名もクラスを担当しており、協力隊員は現地人教師への指導、授業のサポートも行っています。今後、

第2の都市にあるサンティアゴ校にも協力隊の派遣が予定されています。

左記の3つの学校は全て一般公開授業で、学生の年齢もさまざまです。学習動機は主に「日本のアニメ・漫画が好き」「日本の文化に興味がある」というもので、多くの学生が趣味として日本語を学んでいます。2年間で初級前半レベルを終え、初級後半、中級へと進んでいきますが、中級まで進む学生は少ないのが現状です。ドミニカ共和国には日本企業がほとんどなく、日本語を学んでも実際に日本語を使う機会は極めて少ないのです。今後は、中級へと日本語学習を続けていけるようなクラス作りが課題となっています。

現地人教師が中米カリブ全体で活躍

近年、日本語を長年にわたり勉強してきた学生たちの中から、トレーニングを経て日本語を教える立場になる人が少しずつ増えてきました。日本語を仕事として使う機会が少ないこの国で教師として採用され、少しでも収入を得られることは、日本語学習を続ける上で大きなモチベーションとなっています。

今では、現地人教師が中心となって、この国の日本語教育を盛り上げています。協力隊員が始めた日本語スピーチコンテストは、現地人教師が主力となって運営するまでになりました。また、年に一度開催されている中米カリブ日本語教育セミナーにも参加しています。このセミナーは中米カリブ諸国の国々で一致団結し、日本語教育を盛り上げていこうと始まったもので、各国の情報交換や日本語教授法の勉強会などを行っています。当初は協力隊員が主体となっていましたが、今は中米カリブ全体で現地人教師を中心に行われています。



サントドミンゴ自治大学。「みんなの日本語」で学ぶ。



APEC 大学文化クラス。書道に挑戦しました。

日系人の日本語教育

この国には60年前に移住してきた日系人とその子弟がいます。先ほど紹介した日本語教育機関に加え、日系人の子弟を対象とした日本語学校があり、長年 JICA 日系ボランティアと日系人教師がクラスを運営しています。夏には日系人主催の盆踊り大会が行われ、日系人の子弟は学校やイベントを通して自分たちのルーツや日本文化について学んでいます。

2 国間の架け橋をめざして

ドミニカ共和国は日本から遠く離れた国ですが、たくさんの人々が日本に興味を持ってくれています。私自身、初めてドミニカ共和国で日本語のクラスに足を踏み入れたとき、この国の人々の明るさや、素直に他人を受け入れてくれる懐の深さに驚きました。日本語教授法やシラバスばかりにとらわれがちだった私に、まずは楽しく学ぶということの大切さを教えてくれました。

この国の良さと日本の良さを知っているドミニカ人教師や日本人教師、また日本語学習者が2国間の架け橋となって、これからの日本語教育をさらに盛り上げていってくれることを期待しています。

教材紹介

『小説ミラーさん —みんなの日本語初級シリーズ—』

横山悠太 著

A5 変判 147 頁 1,000 円+税 最新刊



あのミラーさんが小説の主人公に！

作家 日本語教師 横山悠太

わたしは常々、初級の日本語レベルでも読めて、内容もおもしろい、そんな読み物があればいいのに、と思っていました。

一方でわたしは、『みんなの日本語』という「群像劇」のファンでした。その中のエピソードは短くて、断片的です。でもだからこそ、「ミラーさんは、木村さんのことをどう思っているのだろう」とか、「グプタさんは、いったいどんな人なのだろう」などと、わたしに想像させるのでした。こういったことから、『小説ミラーさん』が生まれたのです。

わたしは書き上げた小説を、だめもとでスリーエーネットワークへ持ち込みました。

そしたら、ぜひ出版しましょう、と言ってくださいました。それから二人三脚で文章を練り直し、かわいいイラストもつけていただきました。

話の内容は、ミラーさんが大阪のIMCへやって来て、さまざまな出会いや経験を経て、やがて東京へ転勤するまでの話です。『みんなの日本語初級』の会話や例文、練習、問題などの内容が反映されていますので、よく『みんなの日本語初級』を読み込んだ学習者（あるいは教育者）ほど、この読み物が楽しめるはず。オリジナルのエピソードもたくさん盛り込んでいます。

おおむね初級の語彙・文型の範囲で書かれているため、初級を学んだあとの復習の読み物として最適です。また、18の短い話で成り立っていますので、授業でも取り扱いやすく、学習者に読ませる前に問題を用意しておけば、読解の教材としても利用できます。さらには、みんなで話の続きを考えてみたり、お気に入りの登場人物を主人公にして話を作ってみたりするのもいいかもしれません。

この本が皆さんに喜んでもらえることを願っています。

『みんなの日本語 初級I 第2版 聴解タスク25』

牧野昭子・田中よね・北川逸子 著

B5判 51頁 別冊64頁 CD2枚付(予定) 2,000円+税 9月発行



楽しく聴解のスキルを伸ばす

牧野昭子

本書は、『みんなの日本語 初級I 第2版』に準拠した聴解教材です。作成の基本方針は初版と同様、初級から多様な聞き方を体験し、日本語の聞き取りに慣れていくことを目標にしています。学習者が無理なく楽しく練習を続けられるように、次の点に留意しました。

まず、各課の問題は『みんなの日本語』の学習項目に沿い、文型や語彙は既習のものを原則とすること、練習はタイトルにあるように、情報を聞き取って何かをするという「タスク」を中心とし、聞き取る内容はバラエティに富み、楽しめるものであること、発話形式はインタビューや報告などさまざまなものを採用し、問投詞などのフィラーも取り入れ、

自然なやり取りを提示することです。

今回の改訂では、本冊の改訂に合わせて学習項目や語彙を見直すとともに、初版の出た15年前とは大きく変わった社会情勢も考慮し、現在では成立しにくいと思われる場面や状況を今の時代に合うように変更しました。語彙はできるだけ既習のものに限ってありますが、未習語彙の使用が必要な場合は、翻訳(英語、中国語、韓国語、ベトナム語)を載せて参照できるようにしてあります。

この教材はさまざまな活用が考えられます。まず、『みんなの日本語 初級I 第2版』での各項目の学習が終わるごとに、その項目の理解確認のために、あるいは課全体の

学習後にまとめとして宿題や復習に使うことができます。本冊にも、各課の最後の「問題」に質問を聞いて答えたり、会話内容の正誤を判断したりする聞き取り問題がありますが、本書でそれらとは違うタスク形式の練習をすることにより、総合的な聴解力を養成することができます。また、会話練習を初め、さまざまな発話活動にも応用できます。例えば、ディスカッション、インタビュー、クイズ遊びなどの活動の導入や日本事情を含んだトピックの提供などに、いろいろ利用できるでしょう。本書を活用しながら、楽しく聴解のスキルを伸ばしていただくことを願っています。

『新訂版 読むトレーニング 基礎編 日本留学試験対応』『同 応用編』

和栗雅子・三上京子・山形美保子・青木俊憲 著

基礎編：B5判 137頁 別冊15頁 1,200円+税 8月発行予定 応用編：B5判 147頁 別冊18頁 1,400円+税 既刊

読解ストラテジーを学び、様々な素材に触れる

和栗雅子

日本語学習者にとって、外国語である日本語の文章を読むことは簡単なことではありません。論理的な文章や専門的な用語が使われている文章、構文が複雑な文を読むことは特に苦勞を伴います。

このような点を考慮し、この問題集は、読解文を読んだ的確に答えるためのストラテジーを提示し、それにしたがって練習と実践ができるように工夫をしたものです。読解ストラテジーは、「基礎編」では5つのセクションで、「応用編」では7つのセクションで提示し、それぞれ訳と解説をつけました。

日本語のテキストのテーマは、初級はもちろん、中級になっても、身近な話題が多いと

思われます。そのため、この問題集では、専門分野からも素材を集め、学習者がいろいろな分野の語彙や論理的な文章に触れることができるように試みました。テキストのタイプとして、お知らせ・新聞記事・手紙文・エッセイ・説明文・論説文などを取り上げ、トピックとして、社会・教育・言語・文化・経済・国際・科学など専門分野に関するものまで広く扱っています。

問題集の構成を紹介すると、まず読解ストラテジーの解説があります。応用編を例にとると、必要な情報を探すもの(1. お知らせ・グラフから、2. 文章から)、キーワードを探すもの(3. 対になっている語、4. 接続

語や指示語、5. 数字、6. 比喩表現、7. 意外な意味を持つ語)となっています。ストラテジー別に練習をした後、パート2で練習を積み、パート3の「実践編」で仕上げをするようになっています。

また、最近のベトナムの学習者の増加に伴い、英語・中国語・韓国語のほかに、新しくベトナム語訳を追加しました。

この問題集は、「日本留学試験」の「日本語 読解問題」と同じ形式をとっており、試験を目指す学習者が使用することも可能です。特にパート3は40分程度で解いてみると「日本留学試験」のよい練習となります。



『人を動かす！ 実戦ビジネス日本語会話 中級 2』

一般財団法人国際教育振興会 日米会話学院 日本語研修所 著

B5判 111頁 CD1枚付 2,400円+税 最新刊

様々なビジネスシーンに応用できるスピード感のある会話力を養成

一般財団法人国際教育振興会 日米会話学院 日本語研修所 講師 瀬川由美

本書は、日本語でビジネスをしたいと考えている中級後半レベルの学習者を対象としたテキストです。「本文会話」は主人公アナンがビジネスの様々な場面で活躍する内容が中心となっており、学習者は自分の気持ちをストーリーに引きつけながら、実践的な会話を習得できます。全9課から成り、各課は「本文会話」「表現」「談話練習1」「談話練習2」で構成されています。

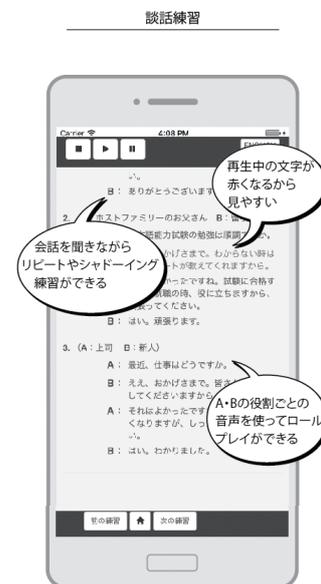
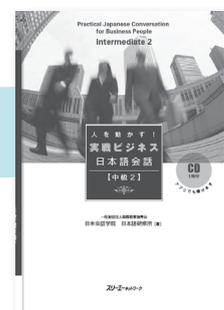
別売のアプリには「本文会話」と「談話練習1,2」の音声とスクリプトを収録しました。学習者は、リピート・シャドーイング・ロールプレイの練習を手軽に、テンポよく行うことができます。また、授業でテレビとつないで活用することもできます。

なお、本書は『人を動かす！ 実戦ビジネス

日本語会話 中級1』に続く教材ですが、主人公のアナンは銀行からコンサルティング会社に転職し、本書から新たな物語が展開します。『中級1』からの学習者はもちろん、『中級2』から始める方もスムーズに話に入っていくことができます。

【目次】

- 第1課 お世話になった人にあいさつをする
- 第2課 クライアントに提案をする
- 第3課 プロジェクトの打ち上げをする
- 第4課 トラブルに対応する
- 第5課 引越越しについて話し合う
- 第6課 ランチミーティングをする
- 第7課 ビジネスの話を持ちかけられる
- 第8課 妻に仕事の相談をする
- 第9課 ビジネスパートナー（医療法人の関連会社）と議論する



アプリのご購入はこちらから→
<http://www.3anet.co.jp/ja/6080/>
 価格120円





なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて本体価格です

新完全マスター語彙 日本語能力試験 N 3	8 月発行予定 1,200 円
新訂版 読むトレーニング 基礎編 日本留学試験対応	8 月発行予定 1,200 円
みんなの日本語 初級 I 第 2 版 翻訳・文法解説ビルマ語版	9 月発行予定 2,000 円
みんなの日本語 初級 I 第 2 版 聴解タスク 25	9 月発行予定 2,000 円
日本語初級 1 大地 文型説明と翻訳 ベトナム語版	9 月発行予定 2,000 円
新完全マスター単語 日本語能力試験 N 2 重要 2200 語 (仮)	10 月発行予定 1,800 円 (予価)

Seminars セミナー

日本語教材まつり 2017 in 名古屋

研修会①日本語教師のための入門言語学

講師：原沢伊都夫（静岡大学国際交流センター 教授）

研修会②「話題別多読」の試み ―語との出会いを保障するために―

講師：橋本直幸（福岡女子大学国際文理学部 講師）

研修会③読解につながる文字学習

講師：本田弘之（北陸先端科学技術大学院大学 教授）

日時：8 月 26 日（土）14:00-17:50（受付開始 13:30）

会場：ウインクあいち 901 会議室（愛知県名古屋市 中村区名駅 4-4-38）

定員：150 名（先着順。定員になり次第締め切ります）

参加費：1,000 円（税込）

問合せ / 申込み先：凡人社営業部（担当：坂井）

TEL：03-3263-3959 FAX：03-6733-7887

E-mail：ksakai@bonjinsha.co.jp

セミナー名、開催日時、お名前、ご住所、お電話番号またはメールアドレスをお知らせください。

主催：アルク、スリーエーネットワーク、凡人社

*当日、各研修の題材書籍や日本語教材の展示・販売を予定しております。会場限定での割引があります。

*内容・スケジュールは変更の場合もございます。

皆さんは、どうやってビジネス日本語を教えてくださいか？ 『人を動かす！ 実戦ビジネス日本語会話 中級 1・2』を使った授業の一例

講師：瀬川由美、紙谷幸子（一般財団法人国際教育振興会 日米会話学院 日本語研修所 講師）

日時：9 月 16 日（土）10:00-12:00（受付開始 9:30）

会場：T K P 麹町駅前会議室ホール 8A（東京都千代田区麹町 3-2 麹町共同ビル 8 階）

定員：80 名（先着順。定員になり次第締め切ります）

参加費：無料

問合せ / 申込み先：スリーエーネットワーク講座係

主催：スリーエーネットワーク

N3レベルの語彙力を養う授業づくり

『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N 3』を使って

講師：伊能裕晃（東京学芸大学 非常勤講師）

日時：9 月 24 日（日）10:00-12:00（受付開始 9:30）

会場：T K P 麹町駅前会議室ホール 8A（東京都千代田区麹町 3-2 麹町共同ビル 8 階）

定員：80 名（先着順。定員になり次第締め切ります）

参加費：無料

問合せ / 申込み先：スリーエーネットワーク講座係

主催：スリーエーネットワーク

公益財団法人アジア学生文化協会 60 周年記念

ABK日本語教育セミナー

日本語教師の学びの楽しみ・楽しみの学び

講師：荒川洋平（東京外国語大学 国際日本学研究院 教授）

内容：日本語教師に必要な学びについて具体的に分かりやすくお話しいただきます。

日時：9 月 30 日（土）

13:00-15:30 ご挨拶・講義（受付開始 12:30）

15:30-16:30 懇親会

会場：一般財団法人海外産業人材育成協会（AOTS）

東京研修センター（東京都足立区千住東 1-30-1）

定員：100 名（応募多数の場合は抽選）

対象：経験の浅い現職教師、日本語教師を目指している方

参加費：無料

問合せ / 申込み先：スリーエーネットワーク講座係

お申込みの際は、右記必要事項に加え、日本語教授歴・このセミナーに期待すること・懇親会参加の有無を明記してください。（締切：8 月 31 日）

主催：公益財団法人アジア学生文化協会

学校法人 ABK 学館

協賛：スリーエーネットワーク

アイカス創立 30 周年記念公開講座

『日本語ボランティア授業学 ～30 年目からのスタートラインへ』

講師：荒川洋平（東京外国語大学 国際日本学研究院 教授）

日時：11 月 11 日（土）13:30-15:30（受付開始 13:00）

会場：仙台国際センター 交流コーナー研修室

（宮城県仙台市青葉区青葉山 会議棟 1F）

対象：日本語講師・地域日本語ボランティア

定員：70 名（先着順。定員になり次第締め切ります）

参加費：アイカス会員 300 円、一般 500 円

問合せ：アイカス研修担当 昆野（E-mail：conno51@

jcom.home.ne.jp）

申込み先：スリーエーネットワーク講座係

主催：NPO 法人アイカス国際都市仙台を支える市民の会（ICAS）

協賛：スリーエーネットワーク

セミナーに関する問合せ / 申込み先

スリーエーネットワーク講座係

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4 トラステイ麹町ビル 2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：kouza@3anet.co.jp

お申込みの際は、参加を希望するセミナー名・お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記してください。電話での申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。

Information お知らせ

全日本ジャパンボウル大会ー日本語を学ぶ外国人留学生のための日本語・日本文化のクイズ大会

日時：11 月 5 日（日）15:00-17:00

会場：京都外国語大学 森田記念講堂（観覧自由）

問合せ：京都外国語大学アカデミックサポート室

TEL：075-322-6774

主催：京都外国語大学 日本語学科

共催：ワシントン日米協会

後援：国際交流基金、スリーエーネットワーク、京都市

URL：https://japanbowl.wixsite.com/kufs

Ja-Net No. 82 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2017 年 7 月 25 日発行

●発行人 藤崎政子

●発行所（株）スリーエーネットワーク

Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4

トラステイ麹町ビル 2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：sales@3anet.co.jp

http://www.3anet.co.jp/

●印刷（株）ワコー

© 2017 by 3A Corporation Printed in Japan

（禁無断転載）

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集部までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第 83 号は 2017 年 10 月 25 日発行です。